

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)パークホームズ河原町

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.9</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 騒音対策			-		-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.1</b>	0.40			
1 開口部遮音性能	住居部分の外部建具をT-2を採用している	3.0	1.00	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	界壁はDr-50以上を基準としている		-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	界床はLr-45以下を基準としている		-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温設定		3.0	0.63	-	-			
2 室温変動の抑制対策			-		-			
3 外皮性能		1.0	0.38	3.0	1.00			
4 ゾーン別制御性			-		-			
5 負荷・設備制御			-		-			
6 個別制御			-		-			
7 換気・空調に対する配慮			-		-			
8 設備の省エネ			-		-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.1</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00			<b>3.3</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50			
1 昼光率	LDIに大きな開口部を設けている	1.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口			-		0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50			
1 グレア対策			-		-			
2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>4.0</b>	0.15	-	-			
1 照度	照度の高い器具を採用している	4.0	1.00	-	-			
2 照度対策			-		-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.6</b>	0.25	<b>4.5</b>	1.00			<b>4.5</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	VOCを含まない又は非常に放出量の少ない建材を採用している	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 化学汚染物質			-		-			
3 化学汚染物質			-		-			
<b>4.2 換気</b>		<b>4.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38			
1 換気量	換気容量の大きい器具を採用している	5.0	0.50	4.0	0.33			
2 自然換気性能	各居室に出来る限り大きく開閉可能な建具を設けている		-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4 換気設備			-		-			
<b>4.3 運用管理</b>			-		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視			-		-			
2 喫煙の制御			-		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.8</b>	0.40	<b>4.6</b>	1.00			<b>4.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性			-		-			
2 高度情報通信設備対応	各居室にGbitクラスのブロードバンドを実装している		-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>5.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.40			
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画	住戸内内装にデザイナーを採用し設計段階で細かい検証をした	5.0	1.00	5.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>			-		-			
1 維持管理に配慮した設計			-		-			
2 維持管理用機能の確保			-		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.31		-			<b>3.3</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能評価の劣化対策等級3の規定を満たしている	5.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	3種類(給排水用鑄鉄管、塩ビライニング鋼管、水道用ポリエチレン管)ともB以上を採用	3.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.8	0.19		-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	-
3	電気設備		3.0	0.20		-	-
4	機械・配管支持方法		5.0	0.20		-	-
5	通信・情報設備	光ケーブルを採用、MDFの浸水の危険性がない場所に設置している	5.0	0.20		-	-
3 対応性・更新性			3.1	0.29	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり					3.8	0.50	
1	階高のゆとり	住戸部分の階高を3.01mとしている			5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.1	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	住宅性能評価の維持管理対策等級(共用配管)2(専用配管)3の規定を満たしている	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	住宅性能評価の維持管理対策等級(共用配管)2(専用配管)3の規定を満たしている	3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		住宅性能評価の省エネルギー対策等級3の規定を満たしている	3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		建物全体の8~9割近くの照明設備をLED照明とした	4.9	0.40		-	4.9
4 効率的運用						-	-
4.1	モニタリング					-	-
4.2	運用管理体制					-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水器具を仕様することにより建物全体として節水できるようにした	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水再利システム導入の有無					-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63		-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.1	0.22		-	3.1
3.1	有害物質を含まない材料の使用	VOCを含まない製品を採用している	5.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		2.3	0.68		-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用してない	4.0	0.33		-	
2	断熱材		1.0	0.33		-	
3	冷媒		2.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		住宅性能評価の劣化対策等級3の規定を満たしている	4.9	0.33		-	4.9
2 地域環境への配慮			2.0	0.33		-	2.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		1.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	機械式駐車場を採用し、適切な駐車台数を確保している	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	